

合格体験記

氏 名:

担任講師: 吉野 太郎, 野本 梢 先生

在籍校舎: 木反木橋 校

進学先 小石川中等教育学校

その他
合格校

*入試に役立った先生のアドバイス・勉強方法や、合格につながった体験・エピソード等を書いてください。

僕が稲門学舎に入塾したのは五年生の春で、当時は難しい問題に触れる機会として通塾していた。そのため、詰め込みではなく、ゆるゆると小学校で習う範囲を進めていた。

そのようなところから本格的に中学受験へ方向を変えたのは六年生の春であった。周りは四年生のときから受験に備えている子が多く、五、六年生からの子はほとんどいなかったためおよそ二年遅れるという、かなり厳しいスタートとなった。そんな中から小石川に合格できたのには、個別ならではのピンポイント指導があったからである。

塾で勉強を進めるうちに、僕の苦手な部分は主に二つあることに気が付いた。まず一つは作文だ。作文の中でも特に苦手だったのが文章構成と具体的な体験例を入れることであった。とにかくたくさん人の作文を書くうちに文章構成は上手になり、冬季講習前には骨組みが形になってきた。しかし、具体的な体験例の入め方はなかなか上達せず、冬季講習が始まり、これも課題であった。そこで家にあった問題集を解き進め、それに付いている解答例を何度も読み返した。また、国語担当の野本先生は、何度も根気強く教えてくれ、課題を着実にクリアできるようにしてくれた。その結果冬季講習前までずたおただ、た文章力がめきめきと付き、冬季講習後にはかなりよともになていった。その後、言葉の付け外しや使い方などの細かい指導を受け、受験の一週間前には文章力を完成させることができた。

もう一つは小石川特有の発想力を求める問題だ。2



稲門学舎

のような問題を考えられる頭にするため、吉
 野先生には理科や社会も教えてもらった。そ
 の副産物として設問中にある言葉の意味をよ
 く理解できるようにした。冬季講習の後半
 からは過去問に取り組み、問題に慣らした。
 この際、問題を最後までこなせず相談して
 みると、「この問題量を45分でこなせる小学
 生はまずいないから、あせる必要はない。」と
 アドバイスを受け、前向きになることができ
 た。そのお陰で試験にリラックスして臨むこ
 とができ、適性検査Ⅱで問題を落とすこともあ
 せらずに適性検査Ⅲに進めた。吉野先生のこ
 のアドバイスがなければ変な力や考えが湧い
 てしまっただと思う。
 このようなピンポイントの指導のお陰で他
 の習い事と両立しながらも小石川に合格する
 ことができた。いつも根気強く教えてくれた
 先生や支えてくれた周囲の方々、大変お世話
 になりました。ありがとうございました。
 平日は毎日自習室通いで大変だったが、か
 んばって本当によかった。これからどんな
 物事にも努力を重ねたいと思う。